

JP Registered Utility Model Publication No. 3082758

(57) Abstract (Corrected)

[Task] The present device provides a heating and warm keeping cold protection earmuff which becomes warm quickly, is maintained at a constant temperature by an electrothermal method and a temperature control operation, and can be used by being attached by insertion on both sides of a cap in a room or when outing.

[Means for Solving] A heating and warm keeping cold protection earmuff comprises an inner cover 4 which is made of a soft warm-keeping material and divided into an earmuff part 411 and a front space by a partition 41 in which apertures 413 are formed, and a cover 1 which encloses a clip-type plate 2 having arc-shaped rims 21 formed at upper and lower parts thereof, a heating part 3 formed at an ear side, an engaging clip part forming a clip base in cooperation with a clip and being formed at the other side, and an insertion base connected to plus and minus electrodes of the heating part, and is made of a soft warm-keeping material such as woolen fabric and including a groove 11 and a hole 12. The clip has transversely arranged teeth on a rear surface and an obliquely-disposed insertion groove at a lower end thereof, and is positioned in place by being protruded on the clip base by a spring.

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11)実用新案登録番号

実用新案登録第3082758号  
(U3082758)

(45)発行日 平成13年12月26日 (2001. 12. 26)

(24)登録日 平成13年10月 3 日 (2001. 10. 3)

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>

識別記号

F I

A 6 1 F 11/14

A 4 1 D 21/00

Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 7 頁)

(21)出願番号 実願2001-3977(U2001-3977)

(22)出願日 平成13年 6 月19日 (2001. 6. 19)

(73)実用新案権者 501117557

林 毅生

台湾台北市民権東路六段190巷21弄38號

(72)考案者 林 毅生

台湾台北市民権東路六段190巷21弄38號

(74)代理人 100065776

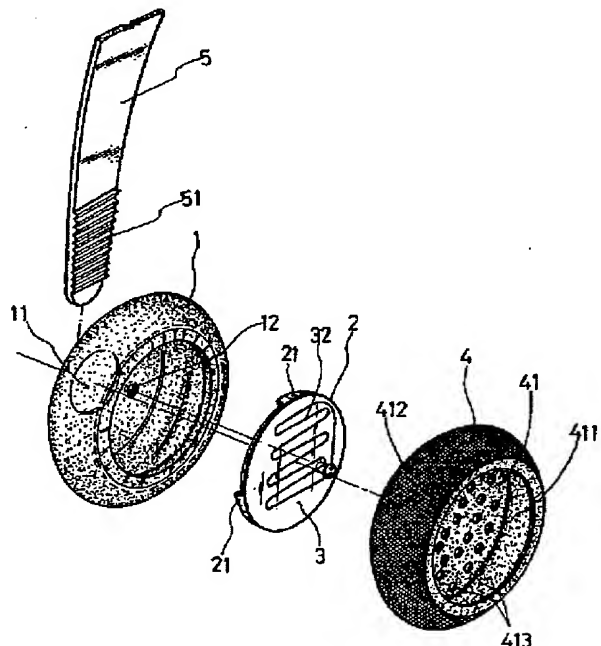
弁理士 志村 正和

(54)【考案の名称】 加熱保温の防寒耳あて

(57)【要約】 (修正有)

【課題】 本考案は、電熱式と温度調節の作用により、すばやく暖め、恒温に保ち、室内或いは外出時、帽子の両側にはさみ使用できる加熱保温の防寒耳あてを提供する。

【解決手段】 溝孔413を形成したしきり41により耳あて部411と前方空間に分けられ軟性の保温材質から作られた内カバー4と上下に弧形縁部21を形成し、耳側に加熱部3、もう一方にクリップとクリップ台を形成した噛み合わせクリップ部及び、加熱部のプラス、マイナス極に接続した差し込み台を形成したクリップ式板2を包み毛織物など軟性の保温材質から成る溝11と孔112を形成したカバー1から構成されている。クリップは背面に横向排列歯を形成し、下端に斜向差し込み溝を形成し、バネによりクリップ台の上に凸出して定位置に形成した加熱保温の防寒耳あて。



## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 電源の供給は外接式を採用し、カバー、クリップ式板、加熱部、内カバーなどから構成し、カバーは内カバーの外側を包む毛織物など軟性の保温材質から成り、クリップ式板の噛み合わせクリップ部に対応し、溝を形成し、クリップ式板の加熱部上に設けられた差し込み台に対応し、孔を形成し、噛み合わせクリップ部及び差し込み台は、カバーに覆われた後、外側に露出し、クリップ式板は上下に伸縮性の弧形縁部を設け、弧形縁部は内カバーにはめ込まれ、さらに、クリップ式板は耳側の面に加熱部を設け、もう一方の面には噛み合わせクリップ部及び差し込み台を形成し、差し込み台と加熱部のプラス極、マイナス極は合わさり、噛み合わせクリップ部はクリップ及びクリップ台から成り、クリップ背面には横向排列歯を形成し、その下端に斜向差し込み溝を形成し、クリップはバネによりクリップ台に凸出して定位置に形成し、直接防寒帽両側を挟むことができ、内カバーは軟性保温材質から作られ、内部はしきりにより耳あて部及び前方空間に分けられ、しきり上にはいくつか溝孔を形成することを特徴とする加熱保温の防寒耳あて。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案一実施例による外観斜視図である。

【図2】 本考案一実施例による立体分解斜視図である。

【図3】 本考案一実施例による加熱部及びクリップ式板の分解構造図である。

【図4】 本考案一実施例による構造分解及び熱伝導操作図である。

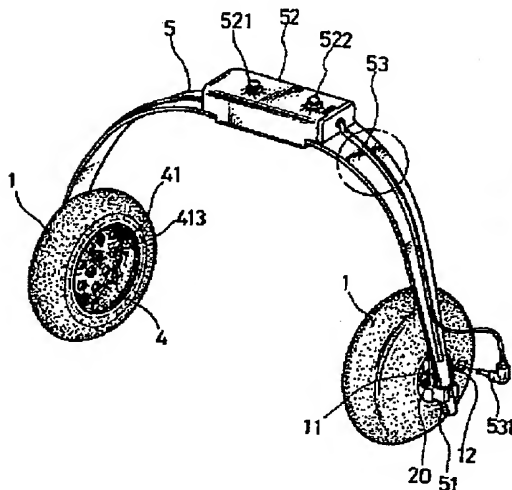
【図5】 図1に記された符号53で示す部分の構造拡大斜視図である。

【図6】 本考案一実施例による外観斜視図である。

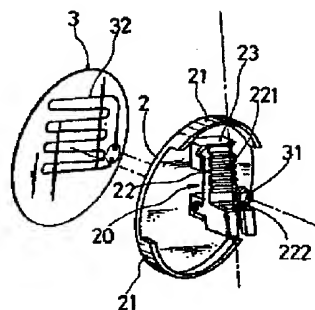
## 【符号の説明】

1	カバー
2	クリップ式板
3	加熱部
4	内カバー
5	クリップ式耳のせ部品
6	防寒帽
11	溝
12	孔
20	噛み合わせクリップ部
21	弧形縁部
22	クリップ
23	クリップ台
31	差し込み台
41	しきり
51	噛み合わせ歯
52	電源供給箱
53	電源線
61	電源供給箱
221	横向排列歯
222	斜向差し込み槽
223	バネ
411	耳あて部
412	前方空間
413	溝孔
521	主電源スイッチ
522	温度恒温調節スイッチ
530	貼り合わせ電源
531	コンセント頭
611	主電源スイッチ
612	温度恒温調節スイッチ

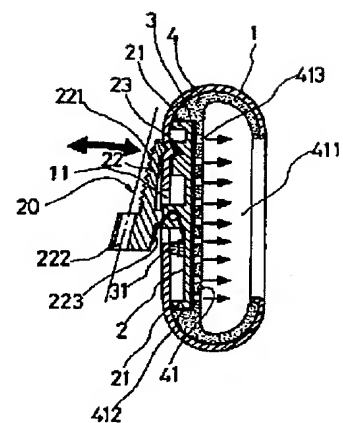
【図1】



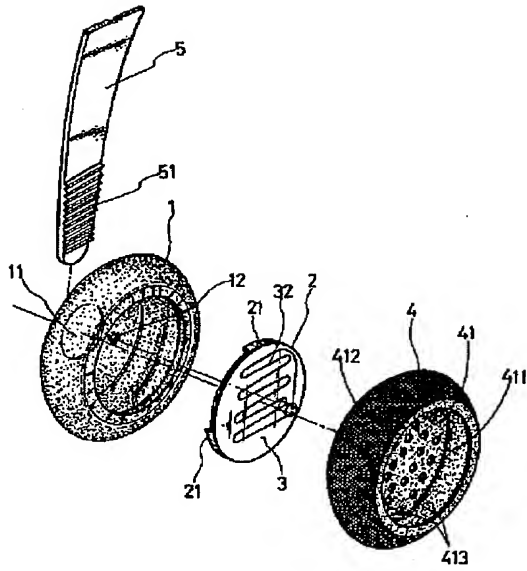
【図3】



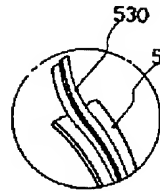
【図4】



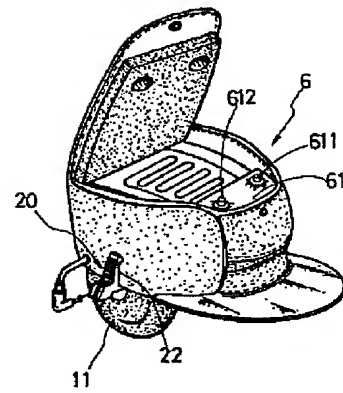
【圖2】



【圖5】



【圖6】



**【考案の詳細な説明】****【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は、電熱式と温度調節の作用により、すばやく暖め、恒温に保ち、室内  
或いは外出時、帽子の両側にはさみ使用できる加熱保温の防寒耳あてに関する。

**【0002】****【従来の技術】**

寒さの厳しい中、身体の部分で耳や頭、手など外に出ている部分は温度に対し  
て敏感である。このような部分がもし、長時間厳寒状態におかれると、人体の活  
動機能は大幅に低下し、重傷の凍傷を引き起こす。このような時、もし、適当な  
暖かさを与えられれば血液の循環を助け、身体自体が熱を産み出す効果を産む。  
一度体温が上がり、熱を産み出し、寒さを取り除いた後、人体活動機能は有効に  
上昇する。

**【0003】**

外界の冷気を遮る保温方法は、帽子、耳あて、手袋などがあるが、これらの保  
温効果には限界があり、特に耳は寒さにより血液循環不良を導く。

**【0004】****【考案が解決しようとする課題】**

従来の耳あては、均等に熱を産み出す効果はなく、寒さの厳しい場合には毛織  
物などで耳を包むなど、材料の保温性を利用しているが、自ら保温する特性を発  
揮することはない。

**【0005】**

また、従来の耳あては独立して使用する構造のため、使用形態を変えたり、分  
解することができなかった。さらに、一度耳あてを身につけると、頭部の形に影  
響を与えるため、防寒帽をかぶる必要がある場合は解決し難い問題となる。

**【0006】****【課題を解決するための手段】**

溝孔を形成したしきりにより耳あて部と前方空間に分けられ軟性の保温材質か  
ら作られた内カバーと上下に弧形縁部を形成し、耳側に加熱部、もう一方にクリ

ップとクリップ台を形成した噛み合わせクリップ部及び、加熱部のプラス、マイナス極に接続した差し込み台を形成したクリップ式板を包み毛織物など軟性の保温材質から成る溝と孔を形成したカバーから構成されている。

クリップは背面に横向排列歯を形成し、下端に斜向差し込み溝を形成し、パネによりクリップ台の上に凸出して定位置に形成した加熱保温の防寒耳あて。

#### 【0007】

##### 【考案実施の形態】

図2、図4に示すように、本考案は、カバー1、クリップ式板2、加熱部3、内カバー4などから構成し、内カバー4は軟性の保温材質で作られ、内部はしきり41により2つの空間に分けられている。一方は耳あて部411となり、もう一方は前方空間12となり、内側にクリップ式板2がはめ込まれている。

#### 【0008】

しきり41には溝孔413が設けられ、加熱部3を保護し隔てているため加熱部3が直接耳に接触し加熱することがない。同時に加熱部3の温度は溝孔413を通して均等に内カバー4内部の耳あて部411内へ伝えられ加熱し、保温効果を発揮する。

#### 【0009】

図2、図3に示すように、クリップ式板2上下縁には伸縮性の弧形縁部21を設け、上下に設けた弧形縁部21により内カバー4の前方空間412内にはめ込まれる。クリップ式板2は軟質の内カバー4を整形するため、内カバー4は変形することがない。同時にカバー1は内カバー4外部にセットするとき、広がり合わさる力がある。

#### 【0010】

クリップ式板2は、耳あて部411に対する面が平面状で加熱部3を形成し、加熱部3が産み出した熱は、しきり41に対応し、溝孔413を通して均等に耳あて部411内に伝えられる。

#### 【0011】

図4に示すように、クリップ式板2はもう一方に噛み合わせとはめ込み固定する機能を備えた噛み合わせクリップ部20を形成する。噛み合わせクリップ部2

0は、クリップ22及びクリップ台23から成り、クリップ22は背面に横向排列歯221を形成し、横向排列歯221下端は斜向差し込み溝222を形成する。横向排列歯221と斜向差し込み溝222の位置は平行で、噛み合わせ機能を産み出し、下端内側に噛み合わせ歯51を形成したクリップ式耳のせ部品5を噛み合わせることができる。クリップ式耳のせ部品5端は斜向差し込み溝222内に挿入する時、斜向の角度に合わさり、クリップ22は横向排列歯221と噛み合わり、快速に組み合わせ、分解できる。

#### 【0012】

さらに、クリップ22はバネ223により弾力性のクリップ機能を備え、凸出してクリップ台23の定位置に形成し、挟まれるものを有効にはさみ込むことができる。

#### 【0013】

図1及び図2に示すように、カバー1は内カバー4の外側を包み、毛織製品など軟性保温材質により作られている。カバー1はクリップ式板2の噛み合わせクリップ部20に対応し、溝11を形成している。同時にクリップ式板2に形成した差し込み台31に対応し、孔12を形成する。溝11及び孔12により噛み合わせクリップ部20と差し込み台31は、カバー1をセットした時、外側に露出することができ、操作に便利である。

#### 【0014】

クリップ式耳のせ部品5を合わせた実施例を図1に示す。噛み合わせクリップ部20のクリップ22は横向排列歯221及び斜向差し込み溝222を形成し、クリップ式耳のせ部品5両端に噛み合わさり固定する。

#### 【0015】

電源の供給は、クリップ式耳のせ部品5に形成した電源供給箱52、両側に伸びた電源線53及びコンセント頭531をとおり、差し込み台31に合わさり電源を供給する。電源供給箱52は、上に主電源スイッチ521と温度恒温調節スイッチ522を形成する。

#### 【0016】

図5に示すように、クリップ式耳のせ部品5は貼り合わせ電源530を採用し

た電源線53を設け、定位置に固定され優れた効果をもつ。

【0017】

本考案の第2実施例を図6に示す。防寒帽6両側には、噛み合わせクリップ部20のクリップ22を利用し、直接防寒帽6上にはさみ固定できる。電源供給は図に示すように、防寒帽6上縁の上に主電源スイッチ611及び温度恒温調節スイッチ612を形成した電源供給箱61により、電源は防寒帽6本体及び耳あてに供給され、共同使用される。

【0018】

【考案の効果】

内カバー4内部のしきり41は溝孔413を形成し、加熱部3を保護し、隔てているため加熱部3が直接耳に接触し加熱することがない。同時に加熱部3の温度は溝孔413を通して均等に内カバー4内部の耳あて部411内へ伝えられ加熱し、保温効果を発揮する。

【0019】

内カバーは密閉式空間なため、加熱の際にすばやく温度を高める効果以外に、保温効果をもち、電源を節約する効果がある。

【0020】

噛み合わせ及びはめ込み固定する2つの機能をもったクリップ式板2は帽子の両側にはさみ固定する異なる使用形態にすばやく変換することができ、広範囲に使用することができる。

【0021】

クリップ式板2上に形成した差し込み台31は外接式電気供給に対応することができる。これは耳あての構造を簡素化し、分解して帽子に配置して使用するなど使用範囲を広げ、操作の簡素化と便利性を高めた。